

市内中小企業景況調査結果（平成27年4～6月）

やや好転するも、業種によりバラツキあり

下 関 商 工 会 議 所

本所では地域の景況・企業の動向を把握するため、四半期ごとに市内の中堅・中小企業50社を対象とした景況調査を実施しています。このたびは第4四半期（平成27年4～6月期）の調査結果を報告します。

- 調査時点

平成27年6月1日

- 調査対象時期

平成27年4～6月期状況、平成27年7～9月期見通し

- 調査回答企業数

市内の建設業7社、製造業7社、卸売業8社、小売業9社、サービス業10社（回収率82%）

- D I（DIFFUSION INDEX 景況判断指数）

好転の回答割合から悪化の回答割合を差し引いた数値

【概 況】

市内中小企業の景況をみると、前期（1～3月期）では小幅の悪化ながらほぼ横ばいとなっていたが、今期（4月～6月）では好転しているものの業種によりバラツキが見られる。建設業では好転、サービス業でも良好に推移しているものの、卸売業・小売業では好転しているものの悪化のまま推移、製造業は悪化のまま横ばいとなっている。

先行きについては、建設業・サービス業は良好に推移するものの、製造業は好転するものの引き続き水面下で推移、小売業は悪化のまま横ばい。卸売業は悪化するものと予想している。

- 今期(27年4～6月期)の状況（前年同期比）

全産業合計の業況D I（前年同期比）は、前期（27年1～3月期）と比較して、11.1ポイントの好転となったものの、D Iでは△9.8となっている。

業種別の業況をみると、サービス業では1.6ポイント好転し、D Iでも、+10.0とプラス域で推移している。建設業でも14.3ポイントの好転となり、D Iでも14.3とプラス域になっている。卸売業では前期から37.5ポイントと大幅な好転となったものの、D Iでは△12.5と悪化のまま推移している。小売業でも11.1ポイント好転しているもののD Iでは△11.1と悪化のまま推移。製造業では変化ないものの、D Iでは△57.1とマイナス域での横ばいとなっている。

〔売 上〕

全産業で見ると前期（27年1～3月期）と比較すると11.2ポイントの好転となり、D Iでは $\Delta 9.8$ となっている。業種別にみると、サービス業では18.3ポイントの好転となり、D Iでは10.0とプラス域に転じている。卸売業では37.5ポイントの好転となったものの、D Iでは $\Delta 12.5$ と悪化のまま推移。製造業でも14.2ポイント好転しているもののD Iでは $\Delta 14.3$ とマイナス域で推移している。建設業でも14.3ポイント好転しているもののD Iでは $\Delta 14.3$ とマイナス域で推移。小売業では前期と変化なくD Iでは $\Delta 11.1$ となっている。

〔採 算〕

全産業で見ると前期（27年1～3月期）と比較して、3.9ポイントと小幅ながら悪化しており、D Iでは $\Delta 22.5$ となっている。業種別にみると、サービス業では前期と変化なくD Iでも ± 0.0 となっている。小売業では11.1ポイント好転しているもののD Iでは $\Delta 11.1$ とマイナス域での推移となっている。卸売業・建設業では変化なく、D Iでは夫々 $\Delta 25.0$ 、 $\Delta 42.9$ と悪化のまま推移している。製造業では28.7ポイントの大幅な悪化となり、D Iでは $\Delta 42.9$ となっている。

〔資金繰り〕

全産業で見ると前期（27年1～3月期）と比較して、7.5ポイント好転しているものの、D Iでは $\Delta 15.0$ にとどまっている。業種別にみると、製造業では60.0ポイントと大幅に好転し、D Iでも ± 0.0 まで戻している。サービス業でも18.2ポイント好転し、D Iも ± 0.0 となっている。建設業でも14.3ポイント好転しているものの、D Iでは $\Delta 28.6$ とマイナス域での推移となっている。卸売業では25.0ポイントの悪化となり、D Iでも $\Delta 25.0$ とマイナス域に転じている。小売業では11.1ポイント悪化し、D Iでは $\Delta 22.2$ となっている。

●来期(27年7～9月期)の見通し（前年同期比）

全産業合計の業況D I（前年同期比）は4.4ポイントと小幅ながら好転し、D Iでは $\Delta 5.4$ とマイナス幅が縮小する見通しとなっている。業種別の業況をみると、建設業とサービス業では今期と変化なく、D Iではそれぞれ14.3、10.0とプラス域で推移する見通し。製造業では40.4ポイントと大幅に好転するもののD Iでは $\Delta 16.7$ とマイナス域にとどまる見通し。小売業では1.4ポイントの悪化とほぼ横ばいでD Iでは $\Delta 12.5$ で推移する見通し。卸売業では20.8ポイントの悪化となりD Iでは $\Delta 33.3$ となるものと予想している。

〔売 上〕

全産業で見ると、前年同期と比較して変化なく、D Iでは $\Delta 9.8$ と横ばいで推移する見通しとなっている。業種別にみると、サービス業ではD Iで10.0と変化なく、プラス域で推移。製造業では14.3ポイント好転し、D Iでも ± 0.0 まで戻す見通し。建設業でも14.3ポイント好転するものの、D Iでは $\Delta 14.3$ にとどまっている。卸売業では12.5ポイントの悪化、小売業でも11.1ポイント悪化するものと見ており、D Iではそれぞれ $\Delta 25.0$ 、 $\Delta 22.2$ となる見通し。

〔採 算〕

全産業で見ると、今期と比較して2.5ポイントと小幅ながら好転するものの、D Iでは $\Delta 20.0$ とマイナス域で推移するものと見ている。

業種別にみると、サービス業では11.1ポイント好転し、D Iでも11.1とプラスに転じる見通し。建設業では14.3ポイント好転するものの、D Iでは $\Delta 28.6$ と悪化のまま推移。卸売業・小売業では変化なく、D Iでは $\Delta 25.0$ 、 $\Delta 11.1$ とマイナス域での横ばいとなっている。製造業では14.2ポイントの悪化となり。D Iでも $\Delta 57.1$ とマイナス幅が拡大する見通しとなっている。

〔資金繰り〕

全産業で見ると、今期と比較して5.2ポイントと小幅ながら好転するものの、D Iでは $\Delta 9.8$ とマイナス域で推移する見通しとなっている。

業種別にみると、建設業では28.6ポイント、卸売業では25.0ポイントと夫々好転し、D Iではともに0.0まで回復している。サービス業では変化なくD Iでは0.0で推移している。小売業は11.1ポイント好転し、D Iでは $\Delta 11.1$ となっている。製造業では、今期のD I 0.0から大幅に悪化し、 $\Delta 42.9$ となる見通し。

●設備投資

設備投資の実施状況を見ると、前年同期(26年4~6月期：18.6%)と比較して15.5ポイント上昇し34.1%の実績となった。前期(27年1~3月期)実績(23.3%)と比較しても10.8%の上昇となっており、引き続き活発に推移している。投資状況を業種別で見ると、製造業やサービス業では建築機械、建設業では車両・運搬具で実施されている。

来期については全体で19.5%とやや沈静化するものとみている。

●経営上の問題点

建設業では、1位「民間需要の停滞」と2位の「請負単価の低下・上昇難」は前期と変化なく、同じ2位に「熟練技術者の確保難」が入っている。3位には新たに「取引条件の悪化」が入っている。製造業では、1位「原材料価格の上昇」に変化はないものの、2位には「需要の停滞」が新たに入っている。卸売業では、1位「需要の停滞」、2位「仕入単価の上昇」に変化なく、同じ2位に、前回3位の「販売単価の低下・上昇難」が入っている。小売業では、1位の「需要の停滞」は変化なく、2位には、前回3位の「消費者ニーズの変化への対応」が入っており、3位には新たに「大型店・中型店の進出による競争の激化」が入っている。サービス業では、1位の「利用者ニーズの変化への対応」に変化なく、新たに2位に「材料等仕入単価の上昇」が入り、3位には、前回2位の「需要の停滞」と、新たに「店舗施設の狭隘・老朽化」が入っている。

業 種 別 D I 値 表 平 成 27 年 4 ～ 6 月 期

	回答企業数	業 況		売 上		採 算		資金繰り		採算(今期経常利益)
		①	②	①	②	①	②	①	②	
全産業	41	△9.8	△5.4	△9.8	△9.8	△22.5	△20.0	△15.0	△9.8	5.0
建設業	7	14.3	14.3	△28.6	△14.3	△42.9	△28.6	△28.6	0.0	0.0
製造業	7	△57.1	△16.7	△14.3	0.0	△42.9	△57.1	0.0	△42.9	△16.7
卸売業	8	△12.5	△33.3	△12.5	△25.0	△25.0	△25.0	△25.0	0.0	25.0
小売業	9	△11.1	△12.5	△11.1	△22.2	△11.1	△11.1	△22.2	△11.1	△22.2
サービス業	10	10.0	10.0	10.0	10.0	0.0	11.1	0.0	0.0	30.0

① 前年同期(平成26年4月～6月)と比較した今期(平成27年4月～6月)の状況

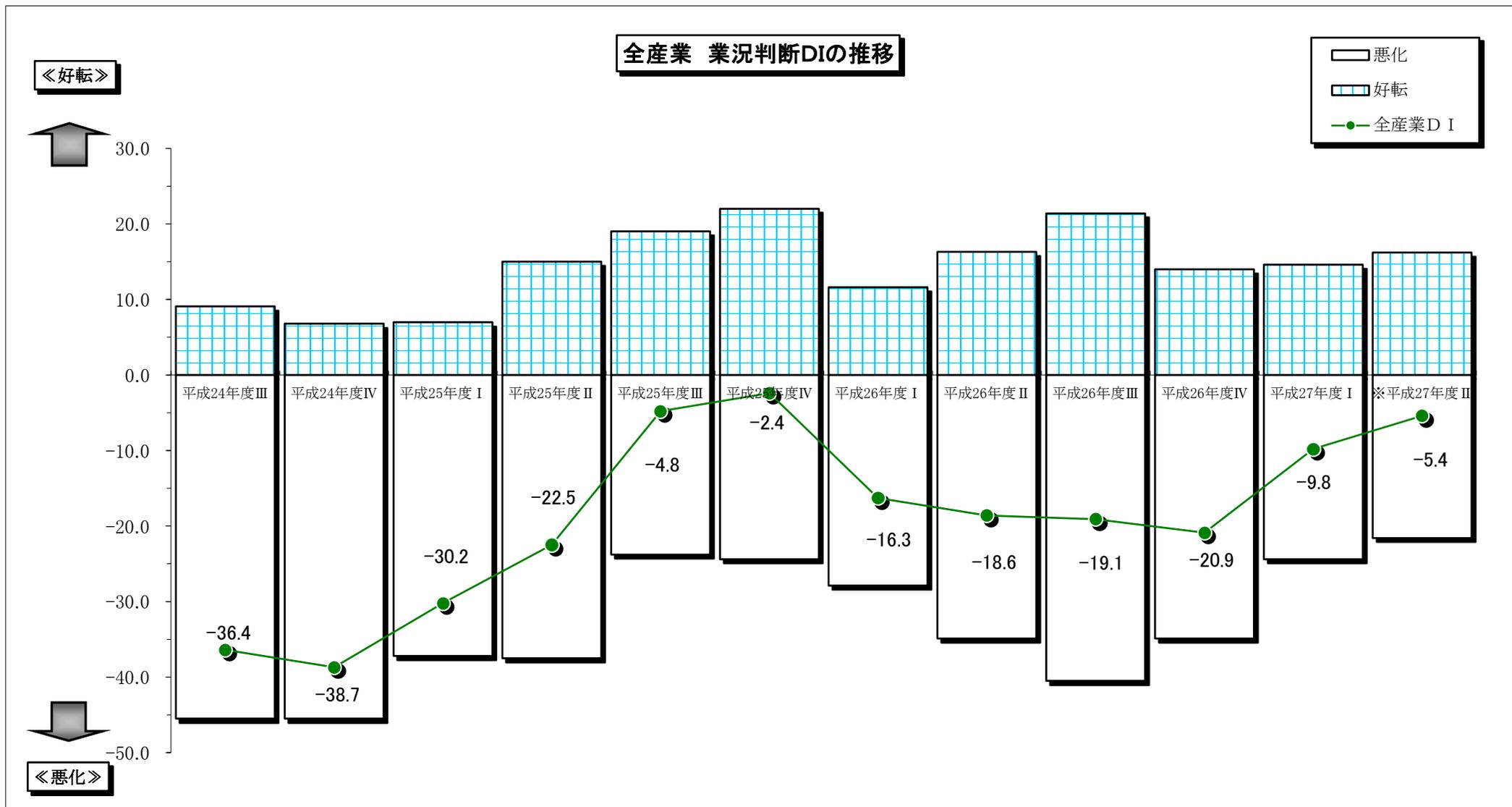
② 前年同期(平成26年7月～9月)と比較した来期(平成27年7月～9月)の見通し

直 面 し て い る 経 営 上 の 問 題 点

産 業	1 位	2 位	3 位
建設業	民間需要の停滞	請負単価の低下・上昇難 熟練技術者の確保難	取引条件の悪化
製造業	原材料価格の上昇	需要の停滞	熟練技術者の確保難
卸売業	需要の停滞	販売単価の低下・上昇難 仕入単価の上昇	メーカーの進出による競争の激化
小売業	需要の停滞	消費者ニーズの変化への対応	大型店・中型店の進出による競争の激化
サービス業	利用者ニーズの変化への対応	材料等仕入単価の上昇	店舗施設の狭溢・老朽化 需要の停滞

設備投資を今期実施した 34.1%

設備投資を来期計画している 19.5%



【業況判断DI】

〈好転〉、〈不変〉、〈悪化〉の選択肢のうち、〈好転〉と答えた企業の割合から〈悪化〉と答えた企業の割合を差し引いた値。

Ⅰ…4～6月期、Ⅱ…7～9月期、Ⅲ…10～12月期、Ⅳ…1～3月期

※前年度同期(平成26年7～9月)と比較した来期(平成27年7～9月)の見通し